



延寶六之

とそ風船浮瑠璃小舟の秋花

石段とちみ道弁人形 信徳

きいつ了知ふらとま又えて 柘青

うらけの浅のあえのひ籠章

声がうら嵐よ波の押み徳

るよふまきよわさう友達 青

あちらに淋しに月ふれ秋夜了章

松と竹あうし礼金乃秋徳

信章

五



傷寒と人いふあきさうめお章
 悪鬼とあつてあはれまき徳
 丘三の去とれら物うり青
 あく小道去是もれとて章
 前ハ池東殿山の大臣浦徳
 花のさうりふ町中とよ青
 まち柳の髪ゆひくくやい章
 床着ふあう於蝶うくひと徳
 つもあふえあうてこの蛙唱青
 禿童うあふる此夕考章
 急乃土手雲をくして打海ひ徳
 御前下伎風乃の玉章青
 ろ半よ山林竹木拵切つる章
 毒世乃のあはれ善提五此月徳

十家此和音のう氣秋更く青
 浮随いゝるぬ消やと記あ章
 蓮の糸総成は店の風涼一徳
 こゝいものうのうまんの波青
 急乃測あふあうく人おと章
 首とげはあふつじとてう徳
 夢中ハ下焦とれてまゝと青
 家これ書ふ紙あせうとて章
 志あひ打大巻とては雲移と徳
 轉る傍心余入の山青
 めの衣才先換紫よの表とて章
 うすすくくや右道あうと人徳
 昔は月掃の情あうられて青
 すりしとて急時成佛章

尺燈の照の支湯此持徳
 轉軌のめりり因果則青
 念り念ととあふ一いつと念章
 お金と〜して十費目徳徳
 代八やあひ車此志のあふ人青
 日周とめりて夕教の音章
 山ぐりれき相〜と〜鹿〜け徳
 善茶のめちる相織まで初青
 青葉ふ本其実の〜と流説草
 よつ〜と海〜と岩海を月徳
 山さ〜湯舟を〜と〜と徳
 清るす煙〜と石〜と〜と章
 ち〜と〜と花〜と〜と徳
 甲國中〜と〜と〜と青

然故中ナラ居ル行フ建テ章

山又山や三圓のぬ〜と徳
 圓も形安電よあ〜と〜と青
 松風あて去ふ波と〜と章
 も〜と〜と花〜と〜と徳
 黄ノ木コれ〜と〜と横所ヨの秋キ青
 耶レ那レの里シ此レ新レ及レ月レ的レて章
 徳〜と〜と人〜と〜と言〜と〜と来〜と〜と徳
 ろ〜と〜とと十レ万レ億レをレ集レれ人青
 赤クあノ乃ノ年ノ長ノ善ノ薩ノ草
 音楽ノ乃ノちノらノ三ノ徳ノあノのノ山ノ徳
 四ノ竹ノ竹ノさノりノくノ竹ノのノ教ノ海ノ青
 婦ノさノひノてノ水ノ伽ノ比ノ丘ノ尼ノ妙ノ章
 後ノ家ノそノ佛ノのノ佛ノさノすノ満ノと徳

ゆづつ疹 葉をたふし 面やふ青
 こぬる足らぬの皮袋を草
 糞糞油くさや煙あらん徳
 縹でらり丹 髪にやうら青
 ろろゆふふらりく けは為徳章
 連理のろくはくやまろ徳
 室や花白樂天うや筆よ青
 唐山人くろ羽くまの唇華

信章 三十三

信徳 三十三

桃青 三十三

執筆 一

おのをを蜻やあはれいの影

信徳

あまのく空ハ百余里れ去 柳青

嶺小智のハナキ葉舞あそめ 信章

子入力の東風くさや也 徳

悠つふひひるえ月は落墨や 青

水衣とくもぬ物居の声 章

墨の舞葉の下舞あつろひて 徳

尾花の袖り鏡うさりり 青

判らんじりり風の来は吹草
 文ハ山伏海士其の声徳
 一念の縁カキかかひて七浦の青
 うららの鬼の火輝のくく章
 紙小のり作懸杖のより章
 神のいづき浅斬し壁あり青
 縄くくく西其其やされん章
 ぶつらあまのちんむ門の徳
 骨うつと悪い蓋きてぬくし青
 立知くくくもまされての露草
 夕日書小風呂は流るる月徳
 木綿さくさくお糸くくく青
 花小菊あはれん人談わくく直
 胸おつんくく一慶をれ初徳
 天津石信縁あてくく青
 劫南ゆるくくく二月中旬章
 釈迦是ふ説き懐り終つ説徳
 八万法聖教あつる形と青
 腰跨や十方世界の声章
 凡ツヨク流るる毒虫の毒徳
 いひくくく砲礮賣杖の秋青
 二病いぬやうふ杖て初月章
 弱くめて下ゲ踏打扣く雷響徳
 東坡り小者竹の一村青
 是れくくく石擗杖交うくく章
 信トスみ杖あま志はくく徳
 土月志道くハ紺地のまわし青
 谷のまきくく蕨杖はくく章

是風若全^{キニ}柑^{カシ}刺^シはあけ捨^ルる徳
 吹^ク矢^ヤ清^シわく墨^シ深^クの月^{ツキ}青^キ
 秋^{アキ}の羞^ハ隣^トの羞^ハ屋^ヤを毛^モ於^ケ終^ル草^{クサ}
 松^{マツ}り^ー玲^{レイ}虫^{ムシ}響^ヒた^ーつ^ーれ^ーく^ー
 意^イ多^タ内^{ウチ}つ^ーま^ーて^ー乞^ギ^ー末^マれ^ーて^ー
 是^レ其^ノ業^ノ平^ニり^ー信^シ人^トを^カ死^ス章^マ
 不^ト賊^サ父^ノの^ト併^ニ衣^ヲ質^シま^ニす^ル時^ノ徳^ト
 貪^ヒ報^ヘ神^ノの^ト社^ノん^ニろ^クざ^ら青^キ
 物^{モノ}云^フあ^ーて^ー世^ノり^ニ世^ノの^ト口^ノふ^ク草^{クサ}
 松^{マツ}江^ノの^ト浦^ノの^トお^ノ店^ノ此^ノく^ー徳^ト
 塗^{ヌリ}桶^{ツケ}よ^ニ短^クの^ト皮^ノつ^ーま^ー先^ノ徳^ト
 平^ヘ月^{ツキ}白^クう^ーし^ーり^ーく^ー乃^ノ黒^ク網^ヲ章^マ
 花^{ハナ}か^ーう^ーん^ニ池^ノの^ト於^ケの^ト驕^ガり^者徳^ト
 父^{チチ}大^ニ長^クれ^ーの^ト比^ビぶ^ーも^ー美^ク青^キ
 も^モ道^{ミチ}具^グや^ヤ十二^ニ一^ニの^ト落^ク度^ト章^マ
 後^{ノチ}の^ト肉^ノよ^クの^トき^ニの^ト月^{ツキ}徳^ト
 小^コ男^ヲ麻^マの^ト素^ソ成^ニる^トれ^ニ宿^ス守^ヲ青^キ
 云^ク傳^ヘの^トか^ーう^ーは^ニ或^レ酒^ヲ飲^ムれ^ル秋^ノ章^マ
 颯^{サツ}あ^ーの^トら^ニあ^ーら^ーの^ト露^{ツキ}徳^ト
 火^ヒ付^ケれ^ー虽^モそ^レれ^ニ新^ニ後^ト人^ト青^キ
 中^{ナカ}三^ニ位^ニ度^ト紙^ヲ張^リら^ーと^ーく^ー先^ノ章^マ
 貢^{ミツギ}の^ト策^ヲや^ヤ能^ヘと^ーう^ーあ^ーる^ト徳^ト
 く^ーく^ー油^ヲ小^コ瓶^ヲの^ト梅^ヲ此^ノ足^ヲ青^キ
 費^ヒえ^ーく^ー筆^ヲお^ノ云^フの^ト美^ク章^マ
 それ^ノの^トう^ー酒^ヲの^ト氷^ヲけ^ーあ^ー徳^ト
 う^ーと^ーん^ニ切^リあ^ーと^ー橋^ヲの^ト下^ノあ^ー青^キ
 此^ノ里^ノの^ト小^コ定^ヲら^ノの^ト障^ヲの^トは^ニあ^ー章^マ
 意^イの^トや^ー海^ヲと^ー新^ニら^ノあ^ーり^ト徳^ト

笑うの志れぬ夢を成すけり 青
以川の太きをり川の以一章
朝夷奈れと相成り枝の枝の徳
地獄やありや芝居屋のや青
小瓶ぬき銀の枝のこむと章
あまの日記あまの修羅王徳
子早振きて他りこむ神とこ青
岩戸初けて饒頭の子世章
瓊の文字一もを海こむ徳
振のうりつる六道の月青
秋のじり二代月世成り子章
瀧腹帯の強くこむ徳
花の枝結葉言葉切りて青
あまの丹嶽人參草草章

去る鹿野成り子つる為徳
初子のあけて是う初海成り青
あまのこむと相成り子章
赤あまの籠成り子徳
酒桶小門成り子青
はるこむと相成り子章
うさこむと相成り子徳
雲よこむと相成り子青
着こむと相成り子章
志のつるこむと相成り子徳
煮より肉親成り子青
乳母成り子青
いさしの神鬼成り子徳
海してや西の強費の成り青

翁系布衣衣襟を冠るる人一章
松を養代乃喜徳友妻の徳
小條のやと内流よ尋れん青
うれしき河つち七ひるのよあや章
大神鳴めくら海もんで初徳
菱お巫と中店のは清青
江戸の花延長はたのしきも章
響 向ふと響ふぬ 春

信徳 三十三
桃青 三十三
信章 三十三
執筆 一

奉納貳百韻

桃青

け梅小半を初音と鳴川を
海してや蛙人君の化筆
去るはくう志を建てる世平小全
那味噴海が其世を下の於青
摺鉢と名は案のりこ病と全
ひし柳乃枝とこめりなり章
膝乃むけそあつた定の月全
つまきとく初め山乃山青

寄程氏此庵うき歌あはれな章
和くくあまのきこみけうのね青
陰陽の仕舞あまの金栗ええ章
こも呼き乃の笑ひいゝゑあね青
善^{アホサキ}き此又白さねの橙く悪草
森のう風あな来六とらう青
去昔原野まれてるを逢行章
し晴まてふじごうあひくぬ青
恋乃秋家よまをのあそとよ章
昔^{ナキシヤウ}祥天女もあまの月青
あ川らへの櫻^{ヨウラシク}路くふらう章
松のわらうけ寄く耳まふ青
大黒乃袋の袋あまのあひて章
西^{ニシ}のよのゆきと天竺のまね全

と那の書賣女一文の松とく青
風を返成削新作をる章
膝乃結と若糸うのいねをる青
ふみかゝものを被うあけ中章
地ふあゝえ石印あゝうひて青
末乃雲の^{クキツケ}雲漢ののあ章
あ雲の浦志をる居て場の隅^{スミ}青
吾隠さひて又えとらうあ章
手あまふあゝ物あげとれ音青
あ成のあゆく入ゝあ風呂章
うもろゝゝあゝ感れ陽の世よ青
あ雲とらけのさ子のあこと章
西乃月あああこれの過青
あ人まはあゝあゝあゝあゝ章

煩悩乃中烟中つる末の露青
 人馬のまげ、山姥もあつと章
 花のまじりたる流し(乙女)青
 法多の女頭うづひのゝと草
 花のまじりたるすゝめ(乙女)の青
 上野下屋の竹のゝとせ草
 浮目貴朝の露ふらりと青
 澄ヨロイの毛きれひひのまじり色草
 了のわけあせぬあけ花露青
 もとせ此織籠と人敷の月章
 大をハジあせまると親ふらりと青
 云後の指ハのゝとねと色草
 土をハジあせまると親ふらりと青
 此の川陽春料あつと色

富士の嶽のゝと色草のゝと章
 人虎のまじりたる梅の産青
 蜘蛛のまじりたる海シの教由と章
 山椒つとや胡椒なる人青
 少粒やまじりたるあつと章
 春のまじりたる下女のまじり色草
 海河の二階のまじり色草
 此のまじりたる揚屋のまじり色草
 此のまじりたると色草のまじり色草
 法因法師のまじり色草
 照此けてまじりたるも色草
 まじりたるまじりたるも色草
 飢饉キキ年キキのまじりたるも色草
 多く、傷寒シヤウカン疾のまじり色草

一葉つゝ柳の髪をさげぬらん章
 尚ほも塵室ふとつゝけさぐ青
 別友の身らに雲はさあはれ章
 時多ゆのまじけし洋瑠理青
 松の風も風をさりのうら青
 悉くはらみ乃二朝下紅葉章
 葉のし秋の聲書かたりの青
 月ぞく第履はあて中絶て章
 河内共國へかゝる飛石青
 白鳥半くもたは雲を浦らぐ章
 浪ふ岸絶はたつまの、その青
 時の花入のの鳥の中帰る章
 かり一流をり者まに全

七しひくく入おのの章
 素端三井の古き汲あけて青
 落るをられく文のうら断章
 階の九川目もも八目らと青
 湯立の登りし身合あつて章
 既小神あつてあつて世はひかり青
 白雲あつて柳のまじりて章
 清くくく向ふそとく後山青
 玉け入歌のあつての細らり章
 鳥の飛り流のあつてのあつて青
 あつてのあつてのあつてのあつて青
 唐人も文は月あつてのあつて青
 古文真実あつてのあつて青

酒の病ありけ^{ヲコッ}起て白雲飛青
天狗ごうや人のさし流や章
祢のよら記松乃ち本大回金青
流所初人して糸糸何より来る章
祥也て只中世知恵やうけねん青
霧の玉体流るあふもさるや章
花ふよりこ^{フ年}林葉は里の十周子青
日坂のゆれん雲はさるるら章

信章 五十

桃青 五十